

平成 28 年度第 2 回秩父市総合教育会議議事録

期 日	平成 28 年 8 月 29 日 (月曜日)
時間・場所	13 時 30 分～14 時 50 分・芸術文化会館 2 階会議室
出席者	<p>久喜市長、新谷教育長、新井(康)教育委員、山中教育委員、久保教育委員、新井(正)教育委員</p> <p>市長室長、地域政策課長、地域政策課主査、参与</p> <p>教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長 2 名、学校教育課長、教育研究所長、文化財保護課長</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年海外派遣事業として、市の中学生たちと一緒に姉妹都市であるアンチオック市へ行ってきた。海外での貴重な経験になったものと思う。子どもたちも言葉が通じない中でいろいろ苦労したようだが、グローバル社会に対応できる英語力の向上に資する事業であり今後も継続したい。 <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領の改訂に向けた審議が進められている。アクティブ・ラーニングなどの新しい言葉も出てきているようだが、小・中学校の英語教育に関する改訂も検討されている。2020 年から全面実施となるが、条件整備など十分準備を進めたい。 <p>○議事</p> <p>(1) 秩父市総合教育会議傍聴要領の改正について (資料 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初策定した際には、傍聴人による会議の写真、ビデオ等による撮影や録音等を想定していなかったため禁止を明記していなかったが、秩父市議会や県内自治体の総合教育会議における傍聴に関する規定を見ると、傍聴人による会議の写真、ビデオ等による撮影や録音等の禁止が明記されている。そのため、秩父市総合教育会議においても、各委員のプライバシー保護及び会議の円滑な運営を考慮し、傍聴要領を修正し、禁止の規定を追加したい。 <p>なお、本日及びこれまでの会議については、現行の傍聴要領の第 7 条「市長の指示」により、傍聴人の方には写真、ビデオ等による撮影や録音等をご遠慮いただいている。</p> <p>→要領改正について異議なし。</p> <p>(2) 英語力向上に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 2 について教育委員会事務局より説明。

・2020年から小学校5・6年生から教科として実施されるようだが、それ以前から、例えば遊びながら英語に接する機会を増やすなどして、英語への興味を持たせるように取り組んでもらいたい。特に今の子どもたちはリスニングが不得意だと感じている。ゆくゆくは観光地秩父として、観光客に道案内ができる、秩父を紹介できるようになるとよい。(新井康教育委員)

→5・6年生は週2時間とのことだが、短い時間を積み上げるのではなく、授業時間の中でじっくり授業してもらえよう、計画段階からカリキュラムを具体的に考えてもらいたい。(久保教育委員)

→しかし、現状の時間割は目いっぱい状況であり、さらに授業時間を増やすのは厳しいのではないか。逆に10分ずつでも親しんでもらうのがよいと思う。

土曜英語学習事業を実施しているが、小学生を対象としたものもやってもらいたい。最近はスポーツ少年団や塾等、子どもも忙しいので、今から検討してもらいたい。(山中教育委員)

→英語教育の取組は実際にはもっと早くから始まる。これまでの指導要領の改訂では、準備が整った場合は前倒しで取組を進めてよいとすることがあるので、今から準備しておくことが必要である。

授業時間数をどう生み出すか、国では研究している。一日のうちの10分～20分くらいの帯時間や土曜日、長期休業期間を使うしかないかもしれないが、実際にこれらを活用している事例もあるようである。

また、準備のためのマンパワーも必要で、研修の充実やボランティアの活用なども検討する必要がある。

小学校での教科英語は教科としての連続性も必要だが、楽しいものにしなければならない。英語嫌いにならないように注意を払う必要がある。(新谷教育長)

・小・中一貫の計画を早めに検討してもらいたい。先生が互いの授業を見るなど、連携した取組を進めてもらいたい。また、3.対応策案にあるALTの増員や英語指導補助員の配置についてはぜひ予算の確保をお願いしたい。(新井正教育委員)

・ちちぶ学セミナーの英語版はできないか。秩父の英語スタンダードを作れないか。これくらいというレベルを示せるとよい。(久保教育委員)

→英語は必須であり、大人になったらこれくらいという具体的な目標を立てられるとよい。生涯学習も視野に入れ、生涯にわたっても学んでいけるようにしたい。(新谷教育長)

・現在ALTは何人いるのか。学校にはどれくらい回っているのか。(新井康

教育委員)

→現在は 8 名。市内小・中学校と幼稚園を回っていて、学校の規模の違いがあるので一概には言えないが、小学校は週 1~2 回、中学校は週 2~3 回程度回ってもらっている。なお、日本人の英語の免許保持人数は把握していないが、小学校の教師は英語を教えられることにはなっている。(教育委員会事務局)

→しかし、きちんと分かりやすく、かつ子どもが楽しく学べるように教えられるかという点、普段から教えているわけではないので何とも言えない部分はあると思う。そのため、小・中学校の先生の連携を進められないか検討している。(新谷教育長)

- ・私は英語力の向上をぜひ達成したいと考えているが、なぜかという点、インターネットの普及などもあり、今は日常生活に英語があふれていることから勉強し、修得していく必要があると考えている。また、生涯学習としての英語も大事。

そのような中、ALT は重要だが頼ってはダメ。日本人の教師が英語を教えられることがまず必要だが、実際のところ、英語を教えられる・教え方がわかっている日本人教師が少ないと感じる。

先ほど小学校の時間割の中での英語授業の話があったが、私は週に 1 時間の授業などではなく、毎日 10 分、15 分でもよいので教えてもらい、英語に興味を持ってもらいたい。特にヒアリングが 1 番大切。英語は、話す、書くよりも、ヒアリングができれば、話せるようになる。そして、中学生のうちから秩父を英語で紹介できるようになってもらいたい。

そのためには、毎日 10 分のヒアリング授業、秩父についての英語の教科書の作成、英語を教えられる日本人教師の育成を進めたい。(久喜市長)

(3) コミュニティ・スクールについて

- ・資料 3 について教育委員会事務局より説明。

県内では 4 市で 9 校が認定されている。秩父市でも 29 年度から小・中学校で各 2 校をモデル校としてやることを検討している。近隣では深谷市で実施しているので、視察に行く予定。

国と県から事業費の 1/3 ずつ補助が出る。モデル校で 4 校を実施すると、総事業費が 50 万円程度 (1 校あたり 12~13 万円) と見込まれ、市の負担は約 16 万円となる見込み。

- ・学校運営協議会の委員はどのように選任するのか。(新井康教育委員)

→委員は非常勤の特別職の公務員としての立場となり、教育委員会が任命することとなっている。町会役員や保護者、教員 0B を想定して

いる。(教育委員会事務局)

→コーディネーターの役割が大きいと思うが、どのような人を想定しているのか。(久保教育委員)

→教員 OB がよいかと考えている。(教育委員会事務局)

→OB は反対。学校をよくするために熱心に考えてくれる進歩的な人がよい。また、選任にあたっては、教育委員会が任命するのだから候補者の情報提供も十分していただきたい。(新井康教育委員)

→校長と一緒に考え、動いてくれるなど、最後まで学校運営に責任を持っていただける方を選任したい。選ぶ基準は今後決めていくが、校長の意見も聞いていく。(新谷教育長)

- ・アメリカではコミュニティ・スクールの制度は普通にある。固定資産を財源とした予算も持っている。秩父のようにコミュニティがしっかりしているところではやりやすいのではないかと思う。ぜひ成功させたい。(秩父市長)

(4) 秩父祭のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組について

- ・資料 4 について教育委員会事務局より説明。

○その他

- ・平成 29 年度の経営方針に関し、子育て・教育分野のうち、学校教育関連として、「基礎学力の向上、知徳体の調和・慈しみ合う心の醸成」について検討している旨を秩父市長より紹介。

以上